



みんなの水泳……日々徒然

東京2020に向けて ～2018年夏、WPS欧州選手権とアジアパラ～

▶はじめに

今回は、競技規則とクラス分けの見直しの進捗状況、東京2020パラリンピック競技大会のpara水泳の枠配分方法の発表についてお伝えしました。

今回は、2018年8月に行われたダブリン2018WPS欧州選手権と、2018年10月に開催され、日本チームが参加したインドネシア 2018 アジアパラ競技大会についてお伝えしたいと思います。

▶ダブリン2018 WPS 欧州選手権

アジア地域ならアジアパラ競技大会、アメリカ大陸地域ならパラパンナム競技大会という総合大会がありますが、ヨーロッパ地域では、パラスポーツの総合大会はありません。オリンピック競技の方では、2015年に第1回のヨーロッパ競技大会がアゼルバイジャンのバクーで開催されています。para水泳については、このWPS主催のWPS欧州選手権が4年に一度の地域大会となります。

欧州地域最大のpara水泳の大会がこのWPS欧州選手権。クラス分け委員も世界各地域から多数参加していました。



今回は、2018年8月にアイルランドのダブリンで開催され、40か国から約500選手が参加しました。メダルを最も獲得したのはウクライナ、続いてイタリア、イギリスも多くのメダルを獲得しています。

国際クラス分けも、肢体不自由(PI)、視覚障がい(VI)、知的障がい(II)のすべてで実施されました。PIクラス分けでは、5パネルで3日間と大きな規模での実施でした。

●WPS欧州選手権

URL <https://www.paralympic.org/dublin-2018>



▶インドネシア 2018 アジアパラ競技大会

アジア地域でも4年に一度の地域大会が、インドネシアのジャカルタで、10月6日から13日まで開催されました。

大会テーマに、「The Inspiring Spirit and Energy of Asia」を掲げ、アジアパラリンピック委員会(APC)とインドネシア2018 アジアパラ競技大会組織委員会(INAPGOC)が運営主体となり、APC加盟国 43か国・地域が参加して、18競技558種目が実施されました。

para水泳においては、約270選手が参加し、日本チームは、選手46名、スタッフ27名で競技に臨み、メダルランキングでは、中国に続き2位となりました。これまでの大会と比べ、参加する国の数が増え、ウズベキスタンを筆頭に、カザフスタン、インドやフィリピンが獲得メダルを増やしていました。

国際クラス分けは、欧州選手権同様、肢体不自由(PI)、視覚障がい(VI)、知的障がい(II)のすべてで実施されました。PIクラス分けでは、5パネルで4日間と過去最大規模での実施でした。

●インドネシア 2018 アジアパラ競技大会

URL <https://asianparagames2018.id/>



アジアパラの競技会場となったのは屋根の付いた屋外プールで、空調がないため選手たちは厳しい暑さの中競技をしていました。



会場の前には神鳥カルダをモチーフにした大会マスコットの「モモ」のオブジェがありました。



家族連れの観客も多かった印象です。インドネシアの選手パネルと楽しそうに記念撮影する人がいっぱいでした！

▶2018年para水泳クラス分けの見直しの進捗

2018年1月1日から、PIとIIについて、国際クラス分けの見直しが実施されています。先日、WPSから、(PI選手クラス分けの)ここまでの結果などについて発表がありました。

発表によると、「WPS欧州選手権までで、501件のPI選手のクラス分けを実施、そのうち、83%の選手がReviewの選手で、17%が新規(New)の選手であった。この83%のうち、再クラス分けの結果、70%が同じクラスと判定され、13%が上のクラスに、16%が下のクラスに変更となった。7件でアスリートがNE(不適格)、5件でCNC(クラス分け未完了)であった。

新規(N)17%のうち、54%がエントリーと同じクラスと判定され、37%が上のクラスに、8%が下のクラスと判定された。4

件でN(不適格)、3件でCNC(クラス分け未完了)となった。

プロテストは、合計で43件提出され、うち3分の1が却下された。受理されたプロテストのうち、69%は再クラス分け後同じクラスと判定され、28%が下のクラスと判定され、1件が未解決のままである。

上訴については、独立したクラス分け上訴委員会が2件を却下し、別の2件を支持した。この2選手の再クラス分け後に、競技クラスの変更はなかった。他に2件の上訴について、現在調査が進行中である。

抗議と上訴、両方の数について、実施クラス分け数に対する割合としては、前年(改正前と比べて)実質的に差は出ていない。」とのこと。

まだ、オセアニア地域、南北アメリカ大陸地域の選手については、再クラス分けが済んでいない選手が比較的多く残っていますので、再クラス分けが済んだ選手とまだ再クラス分けが済まされていない選手が混在する現状はまだ続いています。ランキングの見方など含め、国際状況を注視していく必要があります。

東京2020パラの水泳は…

東京2020パラリンピック競技大会における水泳競技のセッションスケジュールが発表になりました。2020年8月26日(水)から9月4日(金)までの10日間、午前セッションが9:00から11:30、午後セッションが17:00-21:00となっています。

どの日に何の種目が行われるのか、などはまだ発表されていません。

ここまでで、東京2020パラリンピックの選手枠数、実施種目、枠配分方法、セッションスケジュールが発表になりました。MQS(標準記録)がまもなく発表になる予定です。〈参考〉選手枠の配分方法などは、『Tokyo2020 Paralympic Games Qualification Regulations』に記載されています(最新版は2018.7月版)。

URL https://www.paralympic.org/sites/default/files/document/180719082846038_2018_07_19%2BTokyo%2BQG.pdf



水泳会場となるのは江東区の辰巳の森海浜公園に建設している「東京アクアティクスセンター」。1万5000人の観客が観戦できる会場です。東京都提供

2018パンパシフィックパラ水泳選手権

2018年8月9日から13日まで、オーストラリアのケアンズにおいて、Tobruk Memorial Poolを大会会場として、2018パンパシフィックパラ水泳選手権が開催されました。(オリ水泳のパンパシフィック選手権は、2018年8月9日から14日まで東京で開催されました。)

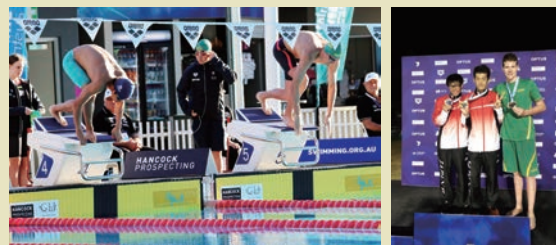
通称パンパシパラと呼ばれるこの大会、WPS主催ではなく、環太平洋地域の国(オーストラリア、カナダ、アメリカ、日本)が中心となって、4年に一度の開催をめざしています。前回は2014年にアメリカのパサデナで開催されました。

今回は、地元オーストラリア、アメリカ合衆国、カナダ、ニュージーランド、ブラジル、インド、シンガポールを含む10か国から134名が参加しました。

日本は選手18名を含む36名の選手団で臨み、アジア新記録1を含む、日本新記録14を出し、金メダル19、銀メダル20、銅メダル8を獲得しました。

ヨーロッパの選手はWPS欧州選手権、残りの強豪国はパンパシパラに参加という構図でしょうか。ヨーロッパを脱みながら、リオなどでのメダリストを迎えて、ハイレベルな戦いだったようです。●パンパシパラ

URL <https://www.swimming.org.au/Events/2018-Pan-Pacific-Para-Swimming-Championships.aspx#acc1>



パンパシフィックパラ水泳選手権で活躍を見せてくれた日本選手たち。写真は代表チームより提供してもらいました！